

令和6年度 一般選抜 後期入試 「文学部小論文」
解答例，出題の意図

1

問1 (1) 【解答例】

贅沢は人間の生存にとって無駄とされるが、生存に必要なものだけでは人間は満足できない。贅沢を享受することが浪費であり、浪費を通じて人間は豊かさを感じられる。浪費の対象は物であり、満足すれば浪費は終わるが、消費の対象は観念や記号であり、消費は満足をもたらさず、終わることがない。よって、浪費によって消費社会の悪循環に亀裂を入れられるという視点を獲得できるから。

問1 (2) 【解答例】

贅沢の本質には目的からの逸脱があり、目的からはみ出た部分で豊かさや充実感を感じられる。だが現代社会では、観念や記号の消費が贅沢をもたらすと主張し、人々を記号消費に留めおこうとする消費社会の論理と、必要や目的を超えて何かを求めることを贅沢として批判する論理が二重になっている。

問2 【出題意図と採点講評】

課題文を踏まえて、自身の見解を述べる問題である。下線部には「社会の傾向ないし論理」として、不要不急と名指されたものを排除するのを厭わない、必要を超え出ること、目的をはみ出るものを許さない、あらゆることを何かのために行い、何かのためでない行為を認めない、あらゆる行為はその目的と一致していて、そこからずれることがあってはならない、といった社会の特徴が書かれているが、これらについては課題文中で丁寧に説明され、さらにその内容を問1 (1) および (2) でまとめているので、適宜それらを利用して見解を論じるとよい。

具体例を挙げて論じることが求められているので、適切な具体例を提示することが必要であった。例えば、経済的合理性が追求される社会において排除されがちな人々（高齢者や障害者など）について考えてみてもよいし、目的がしっかりとしている計画化された旅行に対して、無目的な旅について考えることもできた。また「いいね！」の獲得（インスタ映え）を目的とした結果、失われてしまったものについて考えることも可能であった。

今回多かったのは、学校教育において受験合格を目的とし、読書などそれ以外の活動が不要不急とされてしまったという体験、栄養摂取だけを目的とした食事への批判、文学部での学びの意義、いわゆる「古典不要論」批判などを論じたものである。いずれも適切な事例ではあるが、事例を挙げただけではあまり高い評価にはならなかった。

高く評価された答案としては、不要不急を判断するのは政府などの権力者たちであり、その結果、全体主義的な傾向が生まれてしまうということを批判的に分析したもの、そもそも生きることを明らかにすることなどできないはずなのに、それを強要することで生きづらい社会になっていると指摘したもの、結婚を生産性という観点から考えてしまうことで、同性婚が認められないなど、マイノリティの人たちの人権が奪われてしまうことの問題性を指摘したものなどがあった。どのような立場から論じても、ただ事例を挙げるだけでなく、そこから書き手なりに考察を深めようとしていた答案は高く評価された。

2

問1 【解答例】

2001年1月から9月までのまでは、自動車事故による死亡者数は各月の過去5年間の平均死亡者数プラスマイナス100人の範囲に収まっている。一方、2001年10月以降は、過去5年間の平均より100名以上も死亡者数が多い月が1年近く続いていた。また2001年10月以降の毎月の死亡者数は、過去5年間の最大死者数を上回る場合も多い。2002年10月以降になると死亡者数は減少し、過去5年間の平均に近づいている。このような傾向は、9/11のテロの後に自動車での移動が増加したことに合わせて、自動車事故による死亡者数が増えたことを示唆する。(264字)

問2 【解答例】

恐怖仮説とは(1)テロの後でアメリカ人は飛行機での移動を控えるようになった。(2)飛行機での移動を控えた人は目的地まで自動車で移動するようになった。(3)飛行機のテロに遭遇して死にたくないと恐怖を感じた結果、自動車事故で死亡するアメリカ人の数が増加するというものである。(136字)

問3 【出題意図と採点講評】

課題文を踏まえて、論理的に思考を展開する問題である。解答するためにはまず、恐怖仮説の定義に基づいて、交通事故による死亡者数が増加するために必要な条件を具体的に理解し、そして理解した条件が満たされたかを検討するために、どのような数値(データ)が必要であるかを推論すればよい。恐怖仮説の本質は、悲惨な航空機事故に対する恐怖から、航空機の代わりに自動車を移動の手段として利用することによって、結果的に交通事故による死亡者数が増加するというものである。したがって具体的には、死亡者数増加の条件として、長距離移動の手段としての自動車の利用可能性、自動車以外の手段の利用可能性、長距離移動の必要性、さらにそれらの指標となるデータについて言及していること評価する。

解答では、どのようなデータが必要であるかを記述していても、そのデータによってどのような理論や仮説が検証されるのか、十分に記述されていないものが見られた。また恐怖仮説を構成する変数そのものについて州ごとのデータを得れば良いとする解答も散見されたが、本問題の意図は、なぜ州によって飛行機の利用を差し控える程度に差が生じるのか、自動車の利用に差が生じるのかについて、仮説を生成することである点に留意されたい。

問4 【出題意図と採点講評】

課題文で主張されている論理を、課題文で扱われていない事例にまで一般化する問題である。解答するためには、恐怖仮説を構成する諸要素が日本において満たされるかを自分なりに思考した上で、結論を演繹すれば良い。なんの論拠もなく予測をするのではなく、飛行機に代わる長距離移動の手段としての自動車の利用可能性など、恐怖仮説を構成する要素について言及した上で、予測することが評価される。

恐怖仮説を構成する諸要素が、日本において満たされるかを深く考察していても、考察から論理的に導けないような結論/予測を導いた解答が散見されたものの、概ね良く練られた解答が多かった。